

鈴鹿市国分町

# 富士山 10 号墳発掘調査概要

1978. 6

鈴 鹿 市 教 育 委 員 会

## 1. はじめに

昭和51年5月7日、国分町の天神前で、埴輪列が出ているという連絡を受け、現地へ行った時は、すでに、埴丘は削平され平坦地となり、底部のみを残した埴輪列が丸くほぼ1/2ほど巡っていた。現況を見た限り、主体部は、完全に破壊されているだろうと言うのは大方の意見で、まず埴輪の正確な位置を確認することにした。当初、円墳で、埴輪が丸く巡っているものとばかり思っていたが、埴輪列の北西部で、数本であるが真っ直ぐ西に延びる埴輪列を発見した。埴輪の全体の位置から、あたかも、前方後円墳を彷彿とさせるものがあり、そこで、教育委員会各課の協力を得て、周辺部に2本のトレンチを入れた。その結果、北西方向に延びる、前方部の一部を確認することができた。その後、前方部だけでも全掘して、埴形を知りたかったが、作業員、費用等の都合がつかず、今後の再調査を期待して、5月27日に一応調査を終了した。なお、調査にあたっては、土地所有者の林吉美氏より、心よく、発掘調査の承諾をいただき、また、調査にあたっては、本古墳の破壊を最初に通報いただいた岡田登氏をはじめとして下記の方々の協力があつたことを合わせて感謝申し上げます。

〈発掘参加者〉いずれも、発掘当時。

仲見 秀雄(鈴鹿市文化財調査員) 吉田 義隆, 岡田 登(皇学館大学大学院)

教育委員会・指導課 片岡 徹郎, 山本 俊道

・学校教育 森 和夫

・社会教育 弓削 弘, 伊藤 俊一, 岸田 建雄, 樋口 博幸,

三田ヨシエ, 田中 貞夫, 中森 成行

・図書館 村山 邦彦

なお、遺物整理、報告書作成は、中森があたった。

## 2. 位置・歴史的環境

鈴鹿山脈東麓、四日市市から、鈴鹿市の北部にかけて、内部川開析扇状台地が発達している。その南限は、鈴鹿川に沿って、北東に延び、河原田丘陵につながっている。丘陵の周縁部には、狭谷が深く入り込んで、急な崖状をなしている。本古墳をはじめ、先土器時代の遺跡から、国分寺跡に

至る多数の遺跡がこの丘陵上に所在している。富士山 10 号墳は国分寺跡から、約 4～500m 真東にある丘陵（頂上近くに菅原神社がある。）が南に傾斜し、それが平坦地となる畑地に位置している。本古墳より 100m 南には、富士山 1 号墳（前方後円墳現存）と、すぐ東の畑には、わずかに高まりを持つ古墳の痕跡が二ヶ所認められる。平坦地の南には、浅谷が入り込んで細長い丘陵が、鈴鹿川に連立するように続いている。丘陵と水田との比高は約 25m ある。この丘陵上には、多数の古墳群があって、国分寺跡より東に限って、古墳群名をあげてみると、富士山古墳群（1）の南に、中尾山古墳群（全消滅）（4）、沖坂古墳群（3）、西に、大鹿古墳群（2）、東に、寺田山古墳群（5）、更に、高岡山古墳群（6）と続いている。現在その多くは消滅し、群としてのおもかげがほとんど見られないのが残念である。

### 3. 墳形および外部施設

前方部に延びる埴輪列方向に入れた第Ⅲトレンチより、後円部から前方部に続く、周縁部の一部が見つかった。埴輪列の中央部に入れた第Ⅲトレンチの西端部で、浅い落ち込みが認められ、これを前方部の先端と考えた。前方部の長さは、埴輪列から約 7m、後円部は約 13.5m である。墳丘は、丘陵の端部を削り取って形成している。各トレンチからは、はっきりとした溝としての周溝は認められなかった。第 3 層は、黒灰色を呈し、底近くには多量の埴輪片が混入していた。旧表土とも考えられる。第 2 層は、黄褐色を呈し、古墳の盛土が、削平以前に壊され、それが埋まったものだろうか。第 1 層は、今回削平された時の盛土の一部が埋もれたものと考えられる。

### 4. 出土遺物

底部の破片のみを残した円筒埴輪が、約 60 個体分ある。まず、器壁が薄く、胎土が密で、刷毛目調整が丁寧なもの（A 類）。胎土に、小礫が混り、バラバラしたもので、刷毛目調整が荒いもの（B 類）に大別できる。A 類は 60 個体中、9 個体ある。（埴輪樹立図で No. 17, 20, 22～28 にあたる。No. 21 は遺物を運搬中、行方不明となったが、前後関係より A 類に入るものと考えられる。）その位置は、前方部より南西部に、一つのまとまりとして認められる。その中で、特徴的なものは B

類の底部，外側面についた「へこみ痕」である。A類には全く見られない。「へこみ痕」は偶然ついたものではなく，細く割った藤つるなど植物の表皮の平らな面で押えられた痕で，埴輪製作工人在埴輪底部の径を決めるとき，竹などで輪を作り，その輪に粘土ひもをはめ込んで，内側から強く押した時に生じた痕と推測できる。輪型を作る時に結んだと思われるひもの痕がついているものもある・(No. 10・14・30・60－写真 10・14，30，52，60－拓影) その他，朝顔形，人物埴輪片 (No. 2 写真) も出土している。須恵器片は，二列並んだ埴輪列の中央部から出土している。

## 5. 結 語

富士山 10 号墳は県の遺跡台帳によると，径 10 m，高 1.5m の円墳で，金環 2，須恵器平瓶 2，提瓶 1，脚付盃 1 が出土していることが記述されている。出土遺物を実見していないので詳しいことは不明であるが出土した須恵器片より，古墳の築造時期は 6 世紀初頭が考えられる。また，すでに，遺物が出土していることから推測すると，古墳の大半が壊されていたとも考えられる。付近に石材が見つからないことから主体部は石室構造のものではなかったのだろうか。

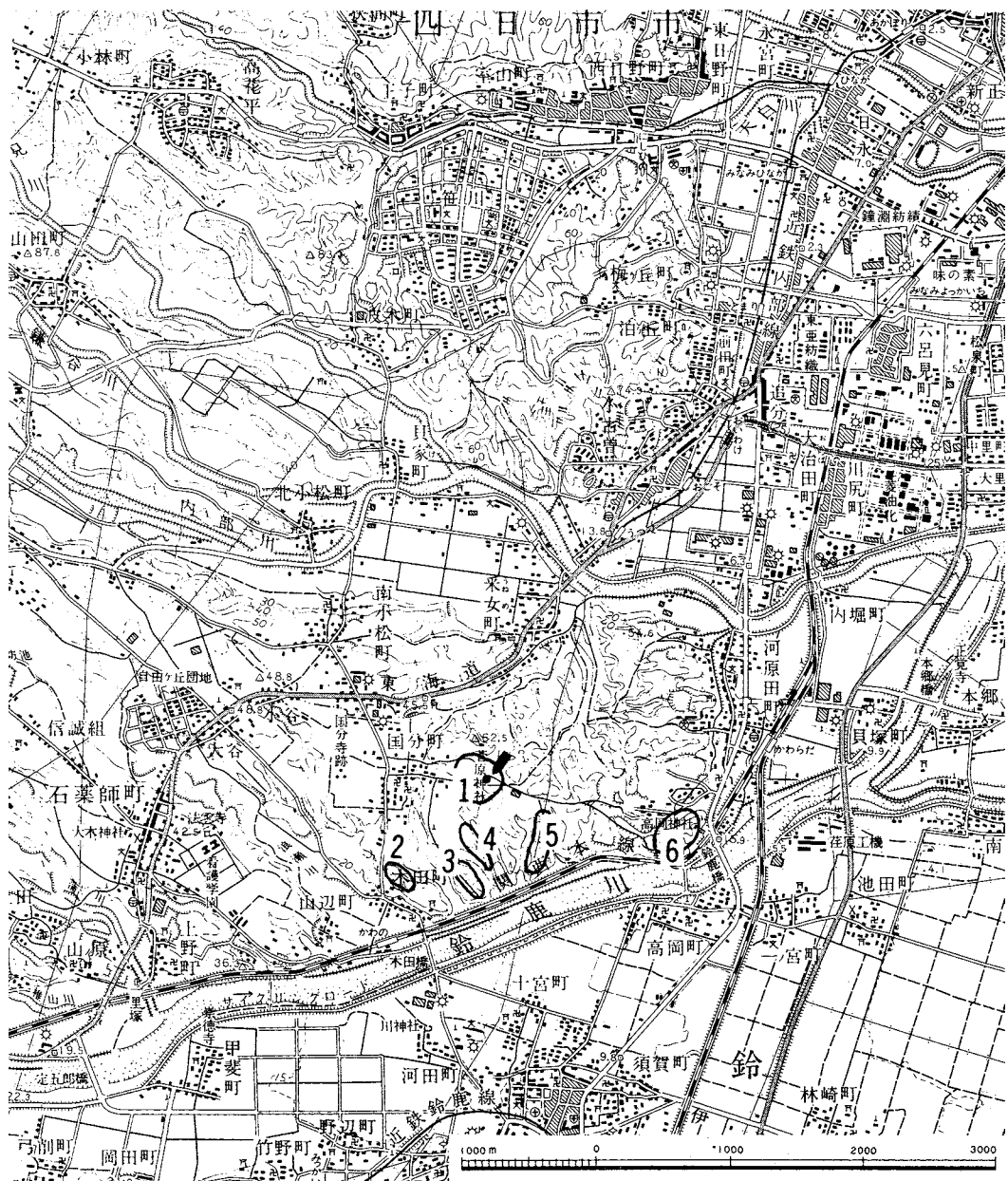
### II

埴輪の底部の側面についた「へこみ痕」は，埴輪製作技法の 1 つの特徴と言える。市制 35 周年記念考古展に出品された保子里の円筒埴輪棺に使用された，埴輪 1 本にもついていたことを記憶している。市内から出土した埴輪を再検討すれば，こうした特徴を持った埴輪も増加するかも知れない。また B 類の埴輪は亀山市の木下古墳，城山古墳からも出土していることから。註①今のところ，鈴鹿川流域を中心に分布する特殊な埴輪とできよう。こうしたタイプの埴輪を追い求めて行くことにより，埴輪の供給範囲を握むことができ，近い将来，この地域で埴輪窯址が見つければ埴輪生産と供給との関係も明らかにされるだろう。

註 1 吉村利男氏 (県文化課) 御教示による。

- ・同じ鈴鹿川流域でも八野 25 号墳から出土した埴輪には「へこみ痕」はついていなかった (平田野中学校保管)
- ・拓影 28 には，わずかに簾状紋風刷毛目手法があり同類と思われるものが西野 5 号墳付近から採集されている。

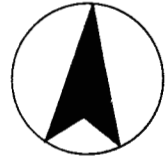
三重大学歴史研究会古代史部会「鈴鹿・亀山地域調査報告」ふびと 1975. 1



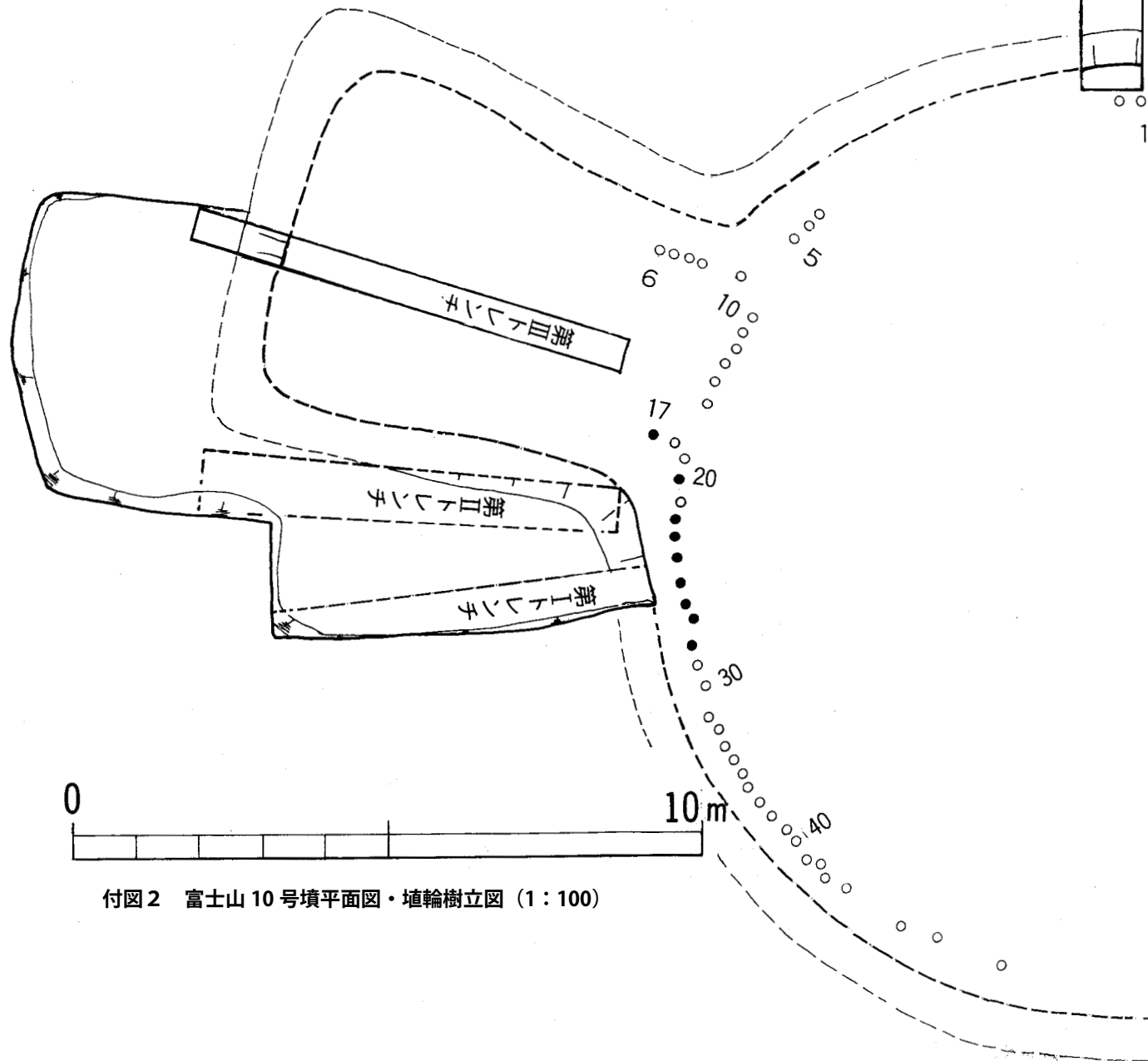
付図1 富士山10号墳の位置（国土地理院「四日市」1：50,000）

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1. 富士山古墳群 | 4. 中尾山古墳群 |
| 2. 大鹿山古墳群 | 5. 寺田山古墳群 |
| 3. 沖坂古墳群  | 6. 高岡山古墳群 |

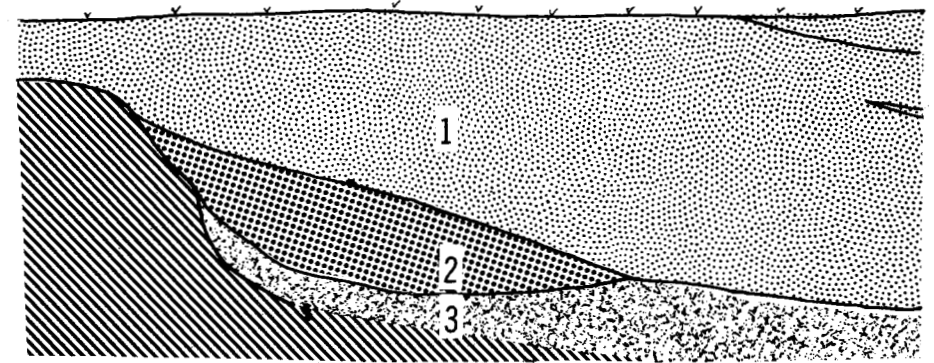
付図1



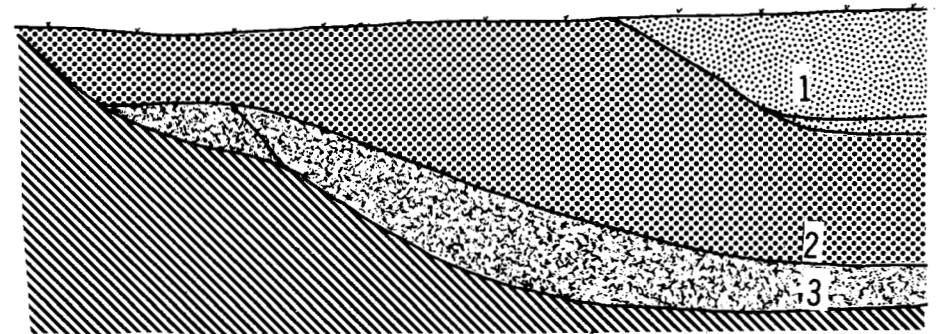
チノコトノミ



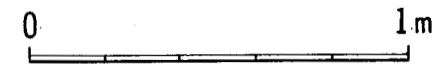
付図2 富士山10号墳平面図・埴輪樹立図 (1:100)



第Iトレンチ南断面図



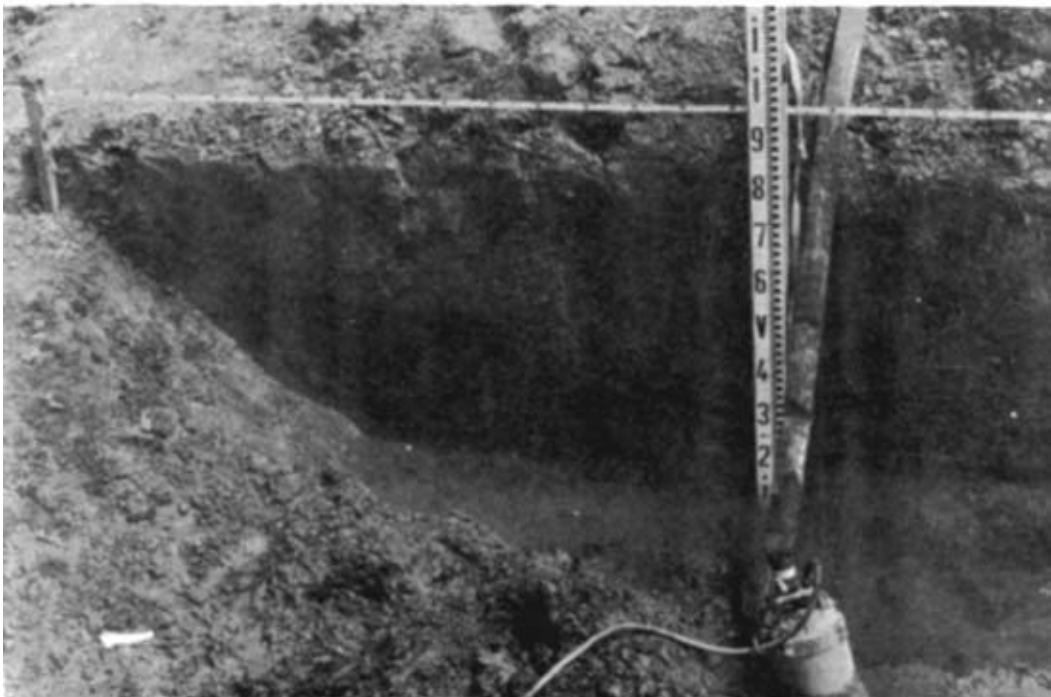
第IVトレンチ東断面図 (1:20)



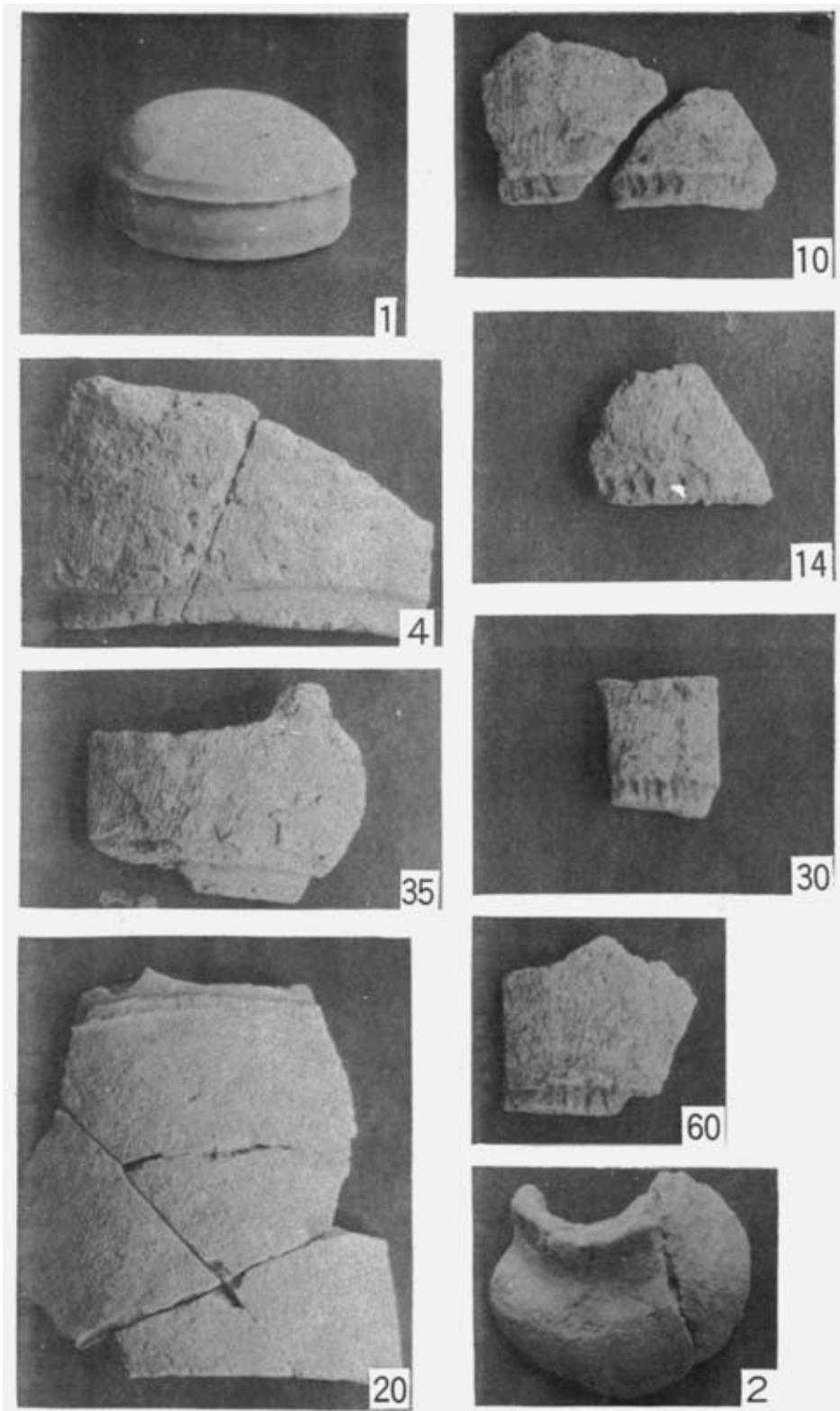
- ; A類埴輪
- ; B類埴輪



墳 丘 (南東より)

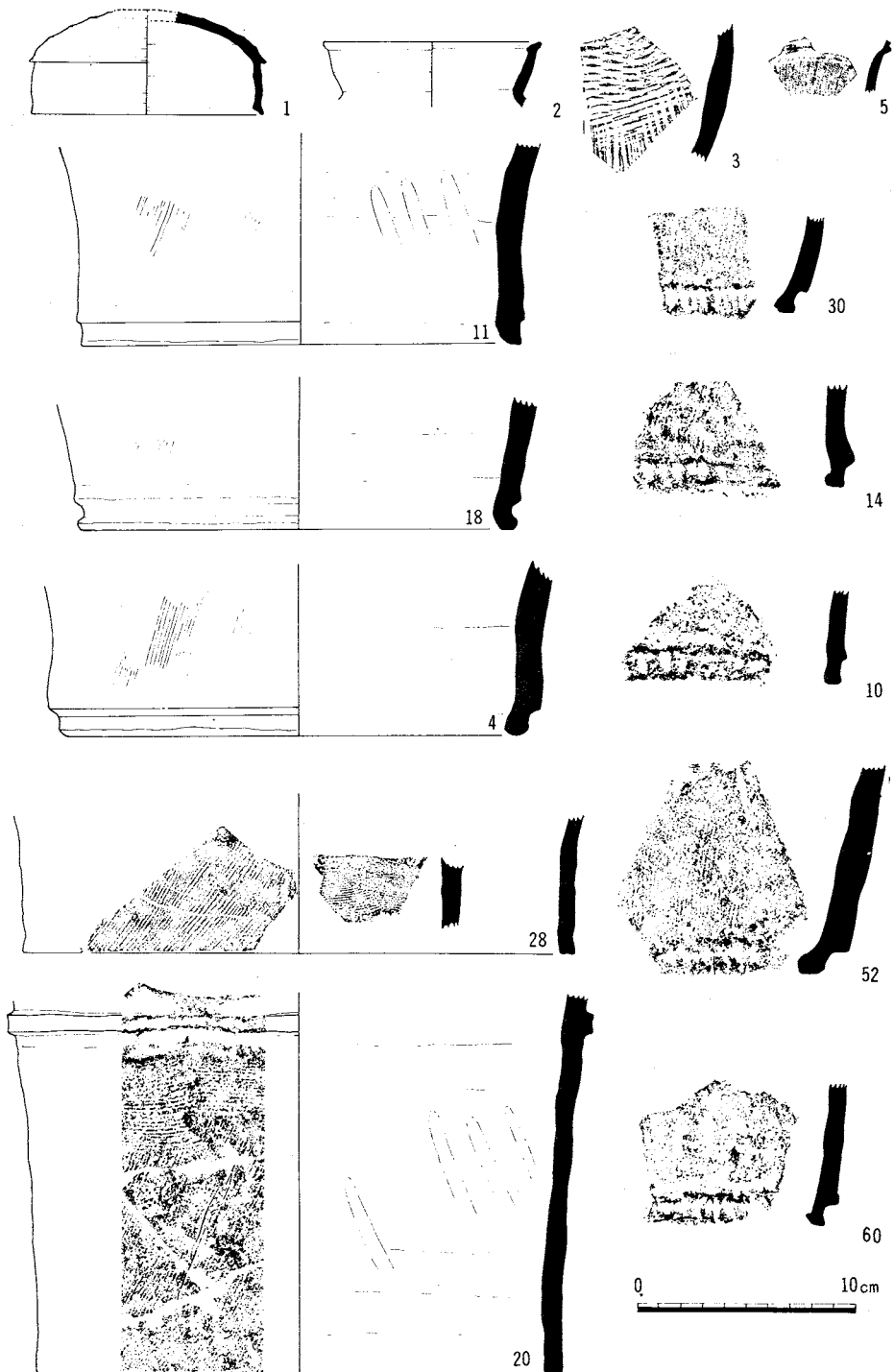


I トレンチ断面 (北より)



須恵器，埴輪（4, 10, 14, 20, 35, 60は埴輪樹立番号と一致する）





付図3 須恵器、埴輪実測図、拓影図(1:3)

(埴輪4.10.11.14.18.20.28.30.52.60は埴輪樹立図番号と一致する)